

てんとうむし



No.4

姫路昆虫同好会

西播のクロツバメシジミについて

岩村 巖

この蝶と私の出会いは10年以上も前の事になる。1964年7月、当時、赤穂市内の学校に勤務していた私は、市内の古い民家の屋根の上を飛びまわっている小さなシジミチョウを発見した。ヤマトシジミにしては生息場所がふにおちないので、通る人が奇異な目で見るとを覚悟で5mの継ぎ竿を振り回してつかまえたのが私のクロツバメシジミ採集の第一号であった。メインストリートを少し離れた古い瓦屋根やワラ屋根の上に食草のツメレンゲも相当生えていることも判明し、個体数も決して少なくなかったように記憶している。1969年頃までは毎年同じ場所で発生をくり返していた事が確認されているが、その後新築ブームによって古い民家の取り壊しがすすみ、最近ではほとんどその姿を見ることが出来なくなってしまった。ただ、昨年の6月に近くの岩山(赤穂市坂越)で1ヶが再び採集されているので、少ないながらも生息はしているようである。

1968年に生息が確認された電野市の場合も赤穂と同様の古い城下町であり、その発生地もほぼ似かよった民家の屋根の上である。町中の所々に残っている本ぶきの瓦屋根の上にツメレンゲが生えており、10月には小さな白い花を多数つけた10cm内外の花穂を出しているのがみうけられる。

現在までの所、採集データはいずれも6月下旬～7月下旬と10月中旬～下旬の二期に限られており、第1化が出ると考えられる5月には採集例がない。産地での第1化の発生の確認が望まれる。

・1964, 7. 19	7♂5♀	赤穂市加里屋	(岩村)
・1964, 7. 20	5♂2♀	"	(西垣)
・1964, 7. 21	3♂1♀	"	(岩村)
・1964, 7. 22	1♂1♀	"	(岩村)
・1967, 7. 27	1♂	"	(豆粕)
・1968, 10. 18	12♂5♀	電野市電野町	(岩村)
・1975, 6. 27	1♂	赤穂市坂越	(岩村)
・1976, 10. 17	4♂1♀	電野市電野町	(岩村)
・1976, 10. 17	7♂	"	(広畑)

(S. 02: 姫路市)

秋まで生き残るメスグロヒョウモン

法西定雄

昭和51年10月3日(晴) 虫友、小寺章一氏とともに、福知山線道場駅附近へクロツバメシジミの写真撮影に出かけた。道場駅から千刈水源池に行く途中にある不動岩の下でメスグロヒョウモン1♀を見つけた。翅はいたんでいなかったが、色は少しあせていた。写真を撮ろうと思って準備をしているうちについ見失ってしまった。もう産卵の任務を終えてひとり寂しく余生を送っている姿がかわれであった。

(西宮市)

揖電地区の蝶相

相坂耕作

1976年10月までの採集品のみのデータですが、揖保郡(A)、電野市(B)の蝶の中間発表をさせていただきます。

- (アゲハチョウ科……………8種)
 ジャコウアゲハ(A、B)、アオスジアゲハ(A、B)、アゲハ(A、B)、キアゲハ(A)、クロアゲハ(A、B)、オナガアゲハ(B)、モンキアゲハ(A、B)、カラスアゲハ(A、B)
- (シロチョウ科……………5種)
 キチョウ(A、B)、ツマキチョウ(A)、モンキチョウ(A、B)、スジグロシロチョウ(B)、モンシロチョウ(A、B)
- (マダラチョウ科……………1種)
 アサギマダラ(B)
- (テングチョウ科……………1種)
 テングチョウ(A、B)
- (ジャノメチョウ科……………8種)
 ヒメウラナミジャノメ(A、B)、ヒメジャノメ(A、B)、コジャノメ(A、B)、ヒメヒカゲ(A)、ジャノメチョウ(A)、ヒカゲチョウ(A、B)、クロヒカゲ(A)、サトキマダラヒカゲ(A、B)
- (タテハチョウ科……………14種)
 コムラサキ(A)、ゴマダラチョウ(A、B)、アサマイチモンジ(A、B)、イチモンジチョウ(A、B)、コミスジ(A、B)、サカハチチョウ(A、B)、キタテハ(A、B)、アカタテハ(A、B)、ヒメアカタテハ(B)、ヒオドリクチョウ(A)、ルリタテハ(A、B)、ウラギンヒョウモン(A、B)、ミドリヒョウモン(A、B)、ツマグロヒョウモン(A、B)
- (シジミチョウ科……………13種)
 ミズイロオナガシジミ(A)、アカシジミ(B)、ミドリシジミ(A)、コツバメ(A、B)、トラフシジミ(A、B)、ムラサキシジミ(A、B)、ゴイシシジミ(A)、ベニシジミ(A、B)、ヤマトシジミ(A、B)、ウラナミシジミ(A)、ルリシジミ(A、B)、ツバメシジミ(A、B)、ウラギンシジミ(A、B)
- (セセリチョウ科……………5種)
 ミヤマセセリ(A、B)、ダイミョウセセリ(B)、ホソバセセリ(B)、キマダラセセリ(A、B)、イチモンジセセリ(A、B)=以上55種です。
- (S. 05: 姫路市)



ウラミスジシジミとその食樹に関する知見

広畑政己

ウラミスジシジミは、北海道、本州(東京、神奈川、千葉、埼玉、三重、和歌山の各県を除く)と大分、熊本の各県に分布するが、各々地域により依存する食樹も様々である。

またこの種は裏面の斑紋により *quercivora* と *signata* の2型が知られているが、一般的に知られている型名の *quercivora* とはギリシャ語の複合語で *Quercus* + *Vora* で“ナラ類を食べる”の意があり、名のごとくこれまでの記録では、どの地域でもブナ科のコナラ属に依存している。

因みに、各地域での筆者の知る範囲の食樹に関する記録をみると、北海道南部はミズナラ、カシワ、栃木県塩原地方に於ては、1967年と1974年の調査では主にコナラで、稀にカシワとクヌギ、その他にミズナラという記録がある。又、宇都宮市附近の低山地でもコナラから採卵されている。一方、長野県諏訪市、小県郡での記録をみると、標高950m ~ 1,200mではミズナラから発見されている場合が多く、安曇郡豊科町の標高700mではカシワから多く記録がある。又、木曾郡ではコナラ、ミズナラ、クヌギの順序で多く発見されている。中部、北海道の中間地点にある東北地区の岩手、山形の各県ではコナラから普通に採卵されている。北海道、東北、関東、中部の記録をみる限り、寒冷地と高山地ではミズナラ、カシワ。低山地ではコナラ、クヌギとなり、その食樹の分布の影響を受けているように思われる。

さて、兵庫県下に於けるウラミスジシジミの食樹については、六甲篠原、摩耶山麓の青谷、御影、有馬山の街、多井畑などでコナラとクヌギから採卵されたという記録がある。

筆者は、1976年10月30日と11月14日の2回にわたって、相生市矢野町の2ヶ所にて調査を行なった。その結果は次の通りである。

調査地は、ナラガシワとコナラが混生する林とクヌギコナラが混生する林で行なった。調査に当っては、同じ条件下にある木で、なおかつほぼ同じ数の木で実施した。

まず、ナラガシワ、コナラの混生林に於ては34卵が得られ、コナラにて7卵、ナラガシワにて27卵という結果であった。尚、一見寄生卵と判明するものは、34卵中9卵で寄生率26%となっている。

一方、クヌギ、コナラの混生林に於ては、102卵が得られ、コナラ69卵、クヌギ33卵となった。同じく寄生卵は102卵のうち34卵で寄生率33%となっている。

主として卵は休眠芽の基部付近に産付され、ひこばえから大木に至るまで得られたが、大木よりも小さな木の方が多く、又、樹冠より下枝に多く産卵されていた。又、コナラ、クヌギ、ナラガシワによって、一休眠芽当りの数に差が生じている。コナラの場合は1卵がほとんどで、2卵~4卵も稀に発見された。クヌギに於て

は、1卵 ~ 2卵が多く稀に3卵~4卵もある。ナラガシワでは2卵が多く、3卵~4卵も得られた。コナラ、ナラガシワ、クヌギにかかわらず、休眠芽の大きなものについては2卵以上となり、この産卵習性は安定している。

2ヶ所の調査から得られた卵の数からのみ判断すればナラガシワと次にコナラを好むという結果となったが調査に不十分な点も多く、この通りとは断言できない。ともかく、今回の調査ではナラガシワ、コナラ、クヌギのすべてから卵が見いだせたので前記の通り報告する。

この度の調査に当り、御協力頂いた、岩村巖、入江照夫、尾崎勇、高島千洋の各氏に末筆ながら感謝の言葉を申し述べる。

* 参考文献

- 藤岡知夫/日本産蝶類大図鑑(1975) 講談社
川崎昭人、若林守男/原色日本蝶類図鑑(1976) 保育社
白水隆、黒子浩/標準原色図鑑(蝶・蛾)(1966) 保育社
栃木県の蝶類集録委員会・昆虫愛好会/栃木県の蝶(1975)
函館昆虫同好会/北海道南部の蝶(1974)
信州昆虫学会/信濃の蝶 III(1976)
亀井文蔵、小野泰正/宮城県産の蝶(1971)
山本広一、吉阪道雄/兵庫生物Vol.3 No.5(1959)
兵庫県産蝶類目録(2)
北村四郎、岡本省吾/原色日本樹木図鑑(1959) 保育社
(S. 28: 姫路市)

昆虫館だより ③ 内海 功一

11月の野外平均気温は7.1°C、昨年より約3°Cも低い。このように本年は早く冬入りをした。寒さか加わる12月は虫に関してはさびしい感じの季節である。

館の中ではいま、オンパバタ、ツユムシクツワムシ、ササキリ、ウマオイ、エンマコオロギ、キボシカミキリ、トビナナフシ、キベリハムシなどが秋の虫を混えて生きのびている。つい先日までコバネイナゴがいた。スズムシ、オオナナフシは季節外れのもので大小さまざまのものがいる。寒くても安心なのはツチイナゴ、クビキリギスそして、キチヨウ、ルリタテハ、アカタテハのチョウ達だが、これらは反対に室温が上ると食慾がでて飼育には都合が悪いものだ。

昨年のトビナナフシは1月中頃まで生きたが、もうすぐ秋の虫も寿命を全うすることだろう。いま、約50種の虫達が、じっと、この季節に耐えている。(51. 12. 20)

(S. 08: 佐用郡南光町船越)

ハチの行動半径

三木 順一

巣をもっている動物は、獣であれ、鳥であれ、幼い命の為に、餌を集めるのに、どの位巣から遠くに行動するか、まとまった研究報告を勉強不足であって知らない。

昆虫ではミツバチがよく調べられていて、ノーベル賞を貰ったドイツのフリッシュ博士や、日本の桑原万壽太郎博士の研究で、大体2,000m位というのが知られている。経済的行動半径は500m~1,500mでこの辺が最も多い。平原で気温の高い時は4,000mの記録もある。私の場合、4,000m離れた所に夜間、巣を移動したら、翌日、標高約100mの山を越えて30匹ばかりがもとの巣の所に戻ったものもある。波賀町の深い長い谷間では6,000mも蜜を集めに行ったハチもある。

これらの調査はハチの背に色のラッカーで点をつけ、そのつける位置で背番号の代りをさせ、行動を追跡するのである。この方法を使用して私は、スズメバチの行動半径を調べたことがある。これは大きいので、印刷された小さな活字を、切り抜いてラッカーで、背にはりつけて背番号とした。この大きなハチは9月と10月にミツバチの巣を襲撃してくる。数匹のスズメバチに襲われると2~3万匹のミツバチの一群も、1時間とたたない間に全滅させられる。蜂飼いにとっては大害虫なのである。ミツバチの巣の前に飛んで来るスズメバチを1匹1匹網で捕え、背番号をつけ、籠に入れ餌を与えておく、すべてピンセット作業なのだが、危険な作業である。時々刺された事もある。これを2、30匹集まった所で、夕方籠から1匹1匹放して、行く方向を追跡するのである。この実施方法は又別の機会にのべる事にするが、大体10匹あればこのギャングの巣を発見するのが出来る。

ことわっておくが、この大きなスズメバチの巣は大抵土の中にある。お宮やお寺の軒下にある丸いボール状の巣を作るハチはキイロスズメバチで、この方は前者より体は小さいし、ミツバチの巣の中に侵入して来たり、全滅させたりすることはない。私の約10年にわたる調査で、この2種のハチの行動半径は約1,000m、で、1,200mでは殆んど行動半径外であることを知った。一番身近かなアシナガバチやトクリバチの類、それに蟻などは、不勉強でどの位遠くまで行動するのか知らない。前回のべたウツギノヒメハナバチの行動半径はまだ判明してないようである。

其の他でよく調べられているものにマメコバチがある。これは青森県や長野県のリンゴ農場で花粉媒介に利用されるハチで葎の筒に巣を作り、花粉を集めてダンゴにして幼虫の餌にするのである。私の周辺にいるし、私が飼っているシロオビツツハナバチやイマイツツハナバチと同じツツハナバチの仲間、習性もよく似ている。このマメコバチの行動半径は調査では4~50mと意外に少なく、500mの所で放ったものは帰巢しなかったとある。

ジュニアの皆様、夏休みの研究にこの方法でハチの行動半径を調べられては如何でしょう。

(S. 06: 神崎郡福岡町)

上月町円光寺のシルビアシジミ

木村 三郎

1976年10月10日、秋里川下流の堤防を5年ぶりに調査することが出来たが、9月の台風の水害により手ひどく痛めつけられ、食草であるミヤコグサが所々しか確認出来ない程砂をかぶっていた。

さいわい成虫期の為、全滅はまぬがれていたが、個体数は相当減っている様に思われた。

当日シルビアシジミは成虫2♂と12卵、2若令幼虫を確認したにとどまった。

なお、同日このほかにムラサキシジミ1♂、アカタテハ1ex、ルリタテハ1♀、キタテハ1♂を採集し、ヤマトシジミ、ルリウラナミシジミ、キチヨウなどを目撃した。

(S. 03: 飾磨郡夢前町)

飼育中のツマグロヒョウモン

木村 三郎

1976年5月から累代飼育しているツマグロヒョウモンの内、11月に羽化した第4化の1♂と4代目の蛹4つが1977年1月4日現在も無事越冬しそうなくらい元気？でがんばっています。いままで本種の越冬は本州では気温の低下とともに死滅すると報告されていたのでとりあえず発表させていただきます。

(飼育室温度)	2.0°C~15.0°C	=1976, 12. 1~12.10
"	0.5°C~12.5°C	1976, 12.11~12.20
"	-2.5°C~12.0°C	1976, 12.21~12.31
"	-2.5°C~ 6.0°C	1977, 1. 1~ 1. 4

(S. 03: 飾磨郡夢前町)

甲山ふもとでアサギマダラを目撃

法西 定雄

10月10日(晴)。西宮市民の有志が行なっている早朝甲山登山会に出席して、甲山大師の境内に集まって朝の体操をしていたとき、頭上を東から西へヒラヒラ飛ぶものがある。なんだろう。アサギマダラであった。時間は午前7時半。長い間、西宮市の甲山下、甲東園に住んでいるが、アサギマダラをはじめて見た。はなはだ不勉強で恥づかしいことである。"灯台もと暗し"の諺どおり、やれ北海道、信州と遠方まで出かけるが、肝心の地元、西宮の昆虫相については余り分っていない。

私も齢をとって足腰が弱ってきて、遠い道を歩くことが困難になっている。この際、遠征する回数を減らして、もっと近くの地元の昆虫を調べたい。

(西宮市)

三日月町の蝶

広利雅美

僕は蝶の採集を始めて、1年ぐらいいになりますが三日月町の蝶を主に集めましたので、1976年10月までの採集品と目撃した蝶を中間発表させていただきます。これからも町内で発見されていない種が多いと思いますので採集に励むつもりです。

(アゲハチョウ科……………10種)

アオスジアゲハ、ウスバシロチョウ、モンキアゲハ、クワアゲハ、オナガアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、アゲハ、キアゲハ、ナガサキアゲハ、

(シロチョウ科……………7種)

ツマキチョウ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、モンキチョウ、スジボソヤマキチョウ、キチョウ、ツマグロキチョウ、

(マダラチョウ科……………1種)

アサギマダラ

(ジャノメチョウ科……………8種)

ヒメジャノメ、コジャノメ、ヒメウラナミジャノメ、ジャノメチョウ、クロヒカゲ、ヒカゲチョウ、キマダラモドキ、サトキマダラヒカゲ、

(セセリチョウ科……………10種)

ミヤマセセリ、ダイミョウセセリ、アオバセセリ、ヒメキマダラセセリ、コチャバネセセリ、キマダラセセリ、ホソバセセリ、チャバネセセリ、オオチャバネセセリ、イチモンヂセセリ

(シジミチョウ科……………14種)

ムラサキシジミ、ウラゴマダラシジミ、ウラナミアカシジミ、ウラジロミドリシジミ、ヒロオビミドリシジミ(目撃)、ゴイシシジミ(目撃)ツバメシジミ、トラフシジミ、コツバメ、ベニシジミ、ウラナミシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ウラギンシジミ

(タテハチョウ科……………20種)

ウラギンズジヒョウモン、オオウラギンズジヒョウモン、クモガタヒョウモン、ミドリヒョウモン、メスグロヒョウモン、ツマグロヒョウモン、オオウラギンヒョウモン、イチモンヂチョウ、アサマイチモンジ、コムシジ、サカハチチョウ、ルリタテハ、ヒオドシチョウ、キタテハ、ヒメアカタテハ、アカタテハ、スミナガシ、コムラサキ、ゴマダラチョウ、オオムラサキ、

(テングチョウ科……………1種)

テングチョウ 一以上71種です。

(J 23: 佐用郡三日月町)

《食草③》サネカズラ(ピナンカズラ)

家永善文

第2号で分布が発表されたキベリハムシの食草であるこの植物は、全国的に広く分布する常緑のつる性木本植物である。浅い山でも山路の側に他の雑木にからまわりのびているものや竹林の周辺にもよくみうけられる。初めは直立するが、すぐに隣り同志、あるいは他の木にまきつく性質がある。この性質を「逢う」に結びつけて、古くから歌に詠まれている。万葉集にも数首の歌があり、百人一首にも

「名にしおわば逢坂山のさねかずら……………」

とある。

雌雄異株で夏に淡黄色で1.5cmの花が咲く。光沢のある葉は冬に美しく紅葉する。また、5mmほどの球形の果実は直径1cmほどの球形にふくらんだ花床のまわりについて紅色に美しく熟する。庭に植えて十分觀賞できる植物である。

実の美しい葛という意味でサネカズラという。また茎や葉に粘液があり、昔この粘液で髪をととのえたので美男葛ともよばれる。

(S. 13: 姫路市)

《資料室》

下記の方々から貴重な資料文献を恵与されました。皆さん大いに活用して下さい。

淡路昆虫研究会: PARNASSIUS No.16(1976.11)

奥谷貞一: 淡路昆虫同好会10周年によせて

堀田 久: 先山の昆虫相(1)

誘蛾会: 誘蛾燈No.65 (1976.10)

斎藤 修: 片山千賀志: クロフカバシヤクの棲息確認と飼育記録

佐藤清野、内藤、石塚: 八幡平地域8月上旬の蛾

高橋寿郎: 兵庫県産甲虫類に関する文献目録(1975)

兵庫県のクワガタムシ(1965.2)

兵庫県のコガネムシ(1967.1)

兵庫県のハムシ(1X2X3X4X5X6)

兵庫県の昆虫学研究史概説(1X2X3)

その他別刷16

地域開発コンサルタント: 揖保川水系流域の植生図

姫路昆虫同好会々員名簿

1976.12.10現在

編集後記

1977年を迎え、会員の皆様は今年度の楽しい計画や、昨年度の標本の整理に日々をおくっておられることと思います。

1976年発足準備以来一年間、会員の協力のもとに予定通り行事を行いましたことを会長、各委員ともども感謝いたします。今年も精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。また、アンケート用紙、ならびに記録用紙の返送にご協力下さい。(運営委員)

「てんとうむし」Vol.1 No.4

発行日 1977. 1. 20

発行 姫路昆虫同好会
飾磨郡夢前町菅生潤161

写植 山本写植